

OB 会 報

湘南サッカー部 OB 会報 第 41 号



皆さまと共に、創部百周年事業を完遂

50 回生

沢田 ミツル

皆さまにおかれましては、恙なくお元氣にお過ごしのことと存じます。さて、掲題にありますように、創部百周年事業が無事に完遂できましたことを推進事務局の一員としてご報告すると共に、皆さまに深く感謝申し上げます。

湘南高校（当時、湘南中学）が2021年に開校百周年を迎えました。そして、私達が所属したサッカー（当時、蹴球）部も開校の当初に設立され、サッカー部としても百周年の節目を迎えました。

大正十年（1921年）の開校時から存在した運動部の一つであり、「湘南の校技はサッカーであると言われていた」との逸話の真偽は別として、開校時より湘南高校を代表する運動部であったことは間違いないと思われます。詳細は、昨年末に皆さまに配布いたしました『湘南蹴球百年誌』をご覧ください。

〈事業の準備〉

私達、湘南サッカー部OB会においては、かなり早い段階から創部百周年事業に向けての準備が始まりました。

先ず、10数年前からOB会としての事業費の積立が開始されました。牧村英樹さん（37回生）が5代目会長を務めておられた頃から始まりました。

そして、2015年頃からOB会運営の中核を担われている相羽克治さん（41回生）や関佳史さん（48回生）達が中心となり、記念事業の企画が開始されました。記念誌・記念品の制作、記念式典・記念講演・記念試合などのイベント開催など多岐にわたる内容が検討されました。

また、2018年頃から記念事業のための協賛金募集も開始されています。

協賛金募集の会計報告は本誌の後半に掲載いたしますが、延べ240

名強、400万円強の個人からの協賛をいただいております。尚、余剰金が出ましたので、当初からのお約束通りすべてをOB会費の口座に組み入れます。

〈事業の実施〉

皆さま方からのご協力のお蔭で資金面はかなり充実しました。しかし、2019年末から始まった世界的なパンデミックにより、記念事業の実施は少なからず影響を受けました。少なからずと書きましたが、かなりの影響を受けたと言わざるを得ません。

例えば、最後の最後まで記念式典の開催は検討しました。しかし、リスクマネジメントの観点から開催を断念し、結果として各種イベントの開催は総てできませんでした。OB会におけるこの種のイベントは、世代を超えた湘南サッカー部の仲間の絆を強める格好の機会でもあります。過去に、イベントの企画・運営に携わってきた私としてもとても残念でした。

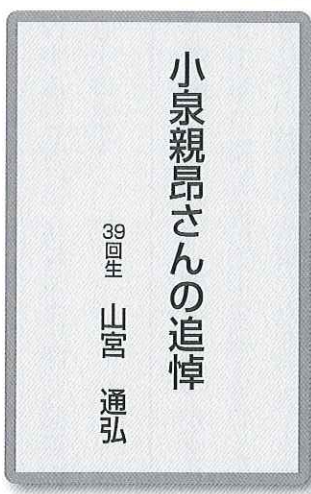
この様に、記念事業のほとんどは実施できませんでしたが、前述した『湘南蹴球百年誌』の作成により、私達が走り回り汗を流した湘南サッカーの大切な足跡・軌跡を遺すこと

ができました。この百年誌は若手OBも参加した編纂委員会を中心に作成いたしました。その執筆は湘南サッカー部のOBである、植松二郎さん(41回生)にお願いしました。300頁を超える秀作です。植松さんは各賞受賞もされているプロの作家ですが、この執筆を無報酬にて対応して頂いております。

この『湘南蹴球百年誌』は今後、湘南サッカー部に入部する新人達にも配布していく予定であり、湘南サッカーの伝統が引き継がれていくことにも貢献できます。また、本誌はOB会のホームページでも閲覧可能です。ホームページは浅倉泰さん(45回生)が長年に亘りシステムメンテナンスされており、多くの方にアクセス頂きたく存じます。私見ではありますが、この100周年を機に、OB会の運営もICT(情報通信技術)を積極的に活用したものに変わっていくのではないかと感じております。

最後になりますが、一点、残念なお知らせがあります。この創部百周年事業を進めてこられたOB会の6代会長である小泉親昂さんが2022年6月にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

皆さまと共に、創部百周年事業を無事に終えることができました。そして、OB会の運営も新しい体制で始まってまいります。多くの若手OBの参画を得て、従来と変わらずに現役選手をサポートする組織として活動を続けていくこととなります。皆さまにおかれましては、従前にも増して湘南サッカー部OB会へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。



今年6月30日に亡くなりました彼の人生を振り返って覗いてみました。湘南高校の昭和39年卒業の同級生同士でした。またサッカー部で部長を務めてました。

我々が過ごした高校3年間は、サッカー部が全国大会に3回、関東大会に1回出場した県下最強のチームでした。その強さを作ってくれましたのは鈴木中先生と3年生3人でした。そして2年生が中心となってチーム

を構成して県下最強となって県代表で全国大会に出場していた時代でした。

我々が3年生代には彼は部長として後輩を引っ張っていく役割を背負っていました。3年生になると受験勉強で部活を辞める部員も多く小泉部長は苦勞したと思います。

早稲田大学政経学部から県庁に勤めたがお祖父さんの影響もあり、市会議員に立候補し4期勤めました。その後社会党として県会議員に立ち4期勤めました。

自身が持っている先頭に立って率先して人々のために動くリーダーシップがあったのでしょう。サッカー部では牧村会長の後を継いでOB会長として亡くなるまで務めました。

又、地域の老人会や各種社会福祉施設に関わって面倒を見ていたとも聞いています。そうした人の為に捧げた人生を送った彼は、5年ほど前に千葉で行われたシニアサッカーの大会でグラウンドに倒れ救急車で運ばれて以来体調が悪く、癌や糖尿病と闘っていた様です。晩年は病との闘いが続いたのは大変お気の毒と同情に絶えません。

自分の信念と人々の為に先頭に立ち政治の世界で活躍した小泉君、ま

だまだやりたいことがいっぱいあった事でしよう大変残念です、お悔やみ申し上げます。



もう6年ほど前のこと、OB会の運営に尽力されている相羽氏、関氏のお二人から、「百年誌」の制作の話を受けました。かるい気持ちで加わったところ、全編を通しての文章化を誰かひとりで担当するのが望ましいという。「誰か」が私になりそうになる。「そんなおこがましいこととはどうてい無理だ」と固辞……いや白状すれば、「単なる記録集でなく、面白い読物をめざしている」という一言が殺し文句となって胸に突き刺さり、私は「やらせてもらいます」とつぶやいたのでした。頬をあかく染めていたかもしれない。

そんなわけで百年誌の文章化を担当しました。渾身の努力は尽くしましたが、至らぬところ、僭越なところ、歯がゆいところがあるうかと思いま

す。お赦してください。

関氏を中心としたデータ収集はみごとなもので、豊富な材料がそろいました。それらをつぶさに見ていくと、終戦後の焼け野原の時代から、花のスペイン遠征の時代まで、まさに隔世の感ですが、やはり一本の川だという思いが強くなりました。あの時代は谷をまっさかさまに駆け下り、ある時代は平野をゆつたり進み、その表情はまったく異なるけれど流れている水は同じという実感がつりました。それを文章化していこうと努めた次第です。

その川の風景を語るのに欠かせないのが、やはりガンさん岩渕二郎大先輩でした。すこしガンさんの話をさせてもらいます。

岩渕大先輩が他界し、数年後、奥さまも旅立たれ、お子さんもいらっしやらなかったの、鈴木中先生とOB会有志が遺品の整理のお手伝いをしたと聞いています。それに際し、私は遺品の一部の保管を託されました。ノートや紙類、つまり「書き物」です。いったん袋から全部取り出し、風に当て、傷んでいる紙は補強しました。そして新しい段ボール箱を用意し、側面にGUNと大書して、むろん今も丁寧に保管してあります。

今回の百年誌に、そのノートで確認できることも多くありました。私はガンさんの個人史にもっと踏みこみたい誘惑にかられました。けれども、一枚の原稿用紙を読んでその誘惑を戒めました。茶色く変色したその原稿はこう始まります。

「明治四十二年、伊藤博文ハルピン駅頭に暗殺せらる、や、我輩は北海道の片田舎に呱呱の声を挙げた。」

そして、運動神経の鈍い子だったなどと意外な事実が述べられ、途中でふつと終わり、あとは空白。その原稿用紙の隅に、「自叙伝というも自体、たわけた精神の現れである」と走り書き。なにやら無然とし、あきらかにふてくされてる。書き始めてはみたものの、自分の過去を思い出してあれこれ書くという、なんともめそめそした感じに嫌気が差して放り出したにちがいない。いかにもガンブチ、私は百年誌にむやみにガンさんの個人史を滲ませることをやめました。「たわけもの！」と怒鳴られそうだから。

遺品の原稿用紙には探偵小説の草稿も多くあります。おそらく下書き。清書をどこかに寄稿されたのでしよう。探偵小説のジャンルで大正から昭和にかけて一世を風靡した雑

誌『新青年』に掲載されたことがあるとも聞いています。

きわめて私的な話をひとつ。私は高校3年のとき、文芸部の級友にそのかさされて一度だけ「湘南文芸」という部活の同人誌に投稿しました。散文詩のできそこないみたいな粗末なものですが、実名入りで掲載されてしまう。そんなヤワなこと、赤っ恥なのでサッカー部のみんなには極秘にしていた。ある日、練習が終わり、部室に戻ろうとした私をガンさんが呼び止めます。「読んだぞ。なかなか面白いじゃないか、ちよつと幻想的で」というセリフをはつきり覚えています。あちゃあ、見られた！顔から火が出るとはあのことです。私たちが関東大会に出場するため水戸へ向かったのは、その数日後でした。



ペガサス70活動報告
代表格 朝倉 泰

前代表小杉さんからご指名を受け今年度から代表を務めております浅

倉です。

私は70のチームでは2年目ですが、70の全活動に参加する様になったのは満70歳になった今シーズンからです。どの様な活動が行われているかを考える上で参考にして頂きたいので概略を説明します。

まず、全国シニア予選リーグ、神奈川シニアリーグ、神奈川シニアトーナメントについては他のカテゴリーと同様に参加しております。異なる点は未だチーム数がそれぞれ7チーム、8チームと少ない為2回、戦いますのでリーグ戦だけで26試合有ること、そして木曜日に試合が組まれていることです。これとは別にO-70交流会が毎週火曜日に馬入サッカー場で開催されています。加盟6チームのメンバーで参加出来る方が集まり、チーム分けをして練習試合を行います。午前中はO-70、午後はO-75、年齢別に分けています。普段は対戦相手となるメンバーと同じチームになりますし、ポジションも普段と違う所でやる事が有り、楽しく有意義な機会です。月1回はロイヤルリーグとしてチーム毎の対戦も行っています。県内の定例的な試合以外にも県外の大会への参加が

有ります。コロナの影響で昨年度までは殆ど中止となっておりましたが、今年度は既に2大会、今後も2大会ほど参加予定が有ります。一泊二日で3、4試合行います。ということとで全てに参加すれば体が持つかどうかは別として80試合近くになり大変充実したサッカーライフを過ごす事が出来ます。

今年度の戦績

1. O-70

上記の正式なリーグ戦については今年度新規加入選手が10名を超えた為、基本的に74歳までの選手で臨む事としてスタートしました。また、全国シニア予選リーグは関東大会、全国大会に出場を目指して勝つ為の選手起用を行い、神奈川シニアリーグは全員出場を前提に試合を行うという事をリーグ戦開始前にメンバー全員に了解を頂きました。

シーズン開始当初は22名を超える参加が有ることも多々有り、平野監督には選手起用についてご苦労をおかけするとともに折原さんには監督補佐として活躍をして頂いております。

その結果10月末段階での戦績は全国シニア予選リーグが5勝1分2敗、イースト、茅ヶ崎に次いで3位、神

奈川シニアリーグは8勝1分1敗、茅ヶ崎に次いで2位につけています。試合内容については、全般的に守備が固く各リーグ内でも最小失点ですが、得点力不足で首位に及ばない状況が有ります。これを打開すべく、様々なフォーメーションにトライをしている所です。

2. O-75、O-80

75歳以上ペガサス会員の定例的な活動はO-70交流会のO-75部門が中心となります。

ロイヤルリーグでは75歳未満のメンバーと一緒にチームを組み試合を行っており、今まで無敗です。

今年度O-75のリーグ戦の発足を目指して協議を進めましたが、来年度は単独チームのリーグ戦ではなく、各チームの75歳以上メンバーを集めて別のチームを編成してリーグ戦を行う事となりました。ペガサスとしては単独チームでの参加を目指しておりましたが叶いませんでした。各チームの75歳以上のメンバーが増えるのを待つしかないようです。県外大会では単独のO-75チームとして参加しております。O-80についてはさすがに参加者が少なくなり、交流会への参加と県外大会へは交流会メンバーで神奈川代表チームを編

成して参加しています。以上、ペガサス70の活動報告とします。



新型コロナウイルスも3年目で蔓延防止等の措置もほとんど無くなったこともあり、今年度のKSSLリーグ戦は順調に消化しました。原稿を書いている時点であと1試合を残し、1勝8敗、得点2、失点22（1試合平均2.4失点）という成績でした。今年度森監督のあとを受けトラス60の監督を引き受け、前年度以上の成績を残すことを目標に戦い、結果としては第2戦で奥寺康彦氏を擁する横須賀マスターズに快勝して、目標は達成できたのですが課題はたくさん残りました。

そこで、未だ終わってはいませんが今シーズンをふり返ります。メンバーとしては、ペガサス60から3名の移籍、新規加入者2名を加えてリーグ戦に入りました。先ず良かった

た点は、全員で良く走ってパスを繋ぐ姿勢であったこと、それが対横須賀マスターズの零封やシーズン通しての失点の少なさ（大敗は0対6が1試合のみ）につながったと思います。全員で良く走って全力を出し切れば、敗戦しても「次戦は勝てる」という気持ちになったのではないかと思います。

一方、反省すべき点はいくつもあります。大きなものとしては、キャンプ以外では声が出ていないということでした。声を出していても（私自身もそうでしたが）聞こえなければそれは声を出していないと同じこととなります。また、これは言い訳になるかもしれませんが、不運な出来事もありました。正ゴールキーパーをはじめとするキープレーヤー負傷による離脱・不調です。負けたことの全てがそのためだとは言えませんが、原因の一つと認識しています。私自身も右膝痛に悩まされました。私はキープレーヤーではありませんが、センターバックというキーポジションを担っていたのに思ったようなプレーができず、メンバーに迷惑をかけた試合もありました。

そこで来シーズンですが、全員が65歳以上というハンディキャップ

(リーグは60歳以上)を克服するためにも、全員で良く走り大きな声を出して戦い、勿論勝つことが目標ですが、負けても悔いがなく楽しいプレーし、プレー後のビールが美味しいと思うような試合をしていきたいと思いません。また、それ以上に怪我をしないためメンバー全員にお願いしたいことがあります。70歳周辺の年齢では週末だけサッカーをすれば怪我をし易く、怪我をすれば治りにくいという悪循環に陥ります。それを防ぐために日ごろの鍛錬は必要で、スクワット・ストレッチのような自宅でも簡単にできることをメンバーに徹底していこうと思えます。毎日はいへんだと思いがちですがサッカーの無い日は少ない時間でもやれば効果があると信じています。0分×百日は0ですが、1分×百日は百分なのですから。

最後に、現役および若手OBの皆さんへひと言、サッカーは健康維持していれば一生続けられます。若手OBの方々は仕事や子育て等多忙な時期をお過ごしかも知れませんが、是非サッカーを続けてください。そうすれば、素晴らしい老後が訪れますよ！



ペガサス60は、神奈川県シニアサッカーリーグ(KSSL)六十雀と、全国シニアリーグ六十雀の二つを主な活動の場としています。この二つのリーグでの活動を中心にご報告させていただきます。

まず、ペガサス60の所属するKSSLリーグ六十雀第一部ですが、今期は実力の拮抗した12チームによる熱戦が最終戦まで繰り広げられました。

4月2日に開幕した初戦の相手は昨年の県議長杯準優勝、丸尾杯優勝の強豪セサンタ。難しい戦いが予想されましたが、4-1と圧勝し、幸先の良いスタートを切ることができました。その後、第3戦までは2勝1分と順調に勝ち点を積み上げ、今期も優勝を狙える好位置からの発進となりました。

しかしながら、第4戦のえぼし戦を0-1で負けてからは、引き分けや僅差の敗戦が続き、初戦からの勢

いに陰りが見えてきました。毎週続く激戦の疲れからか負傷者が続出。これまでのフォーメーション、戦術を見直さざるを得ない状況となり、思うようなゲーム展開ができない試合が続くこととなりました。

残り一試合となった段階での戦績は2勝4敗4分けの勝ち点10点。気が付けば12チーム中11位という順位となっていました。優勝を目指してスタートしたはずが、最終戦の結果によつては二部降格すらあり得る厳しい状況にまで追い込まれてしまいました。

こうした状況の下、背水の陣で迎えた最終戦ですが、対戦相手はこの時点で4位と今期好調の川崎60、容易に勝てる相手ではありません。予想どおり両者譲らぬ激しい試合となりましたが、ペガサス60の勝利への執念が相手チームのそれを上回り、2-0での勝利を手にすることができました。この勝利の結果、KSSLリーグ戦は、7位という順位で終えることができました。

KSSLでは、11月から、県議長杯トーナメントが始まります。まずは、リーグ戦で浮き彫りとなった課題を練習試合等を通じて解決し、初戦の早園戦の勝利に向けて、チーム

コンディションを整えていきたいと思えます。

次に全国シニアリーグ六十雀での活動についてご報告させていただきます。今期の全国シニアリーグ六十雀は、参加26チームを3ブロックに分けて行われています。ペガサス60は、Aブロックに所属し、8チームの相手とリーグ戦を戦っています。

6月25日の初戦から10月までに5試合が行われ、1勝4敗という戦績となっています。初戦から苦しい戦いが続いています。前線からの守備を徹底することでボール奪取の意識が高まりつつあり、9月17日の横須賀メジャー戦で今期初勝利を挙げることができました。毎年、エンジンのかかりが遅いチームです。この勝利を励みにして、11月以降に行われる残り3試合すべてに勝利できるように、全力で取り組みます。

最後になりますが、今期に入り、新型コロナウイルスによる自粛も徐々に緩和されるようになり、県外のシニアサッカー連盟からシニアサッカー大会への招待状が届くようになりました。10月30日には、前橋で栃木県シニアオープンサッカーが開催されることとなり、ペガサス60はトラスとの合同チームで同大会へ参加する予定

です。
 今後も、ペガサス60では、KSS L等公式戦での試合はもろんのこと、練習マッチや対外遠征、懇親会などを通じてメンバー間の相互理解を深め、チーム力の更なる向上に繋げていきたいと思えます。



ペガサス50では他の年代同様、KSS L.. 神奈川県シニアサッカーリーグ五十雀(以下、県シニア)と全国シニア選手権予選O-50神奈川県リーグ(以下、全国シニア)の2つのリーグに所属しています。

県シニアは、昨季は3部在籍ながらも後半粘り強い戦いを展開し3位になり「昇格入替戦」まで出場するも引分けに終わり2部昇格ならず、今年こそは昇格を目指し、人数的には6人卒業、4人加入の総勢24人でスタートを切りました。途中4連勝、4試合連続無失点など好調の時もありましたが、上位チームとの直接対

決で惜敗し、最終戦績は5勝1分け3敗で10チーム中4位と、残念ながら昨季超えには至りませんでした。

天候に恵まれたこともあり、県シニアは7月上旬には早々に終焉を迎えましたが、それと入れ替わるようにして全国シニアが7月中旬から開始。こちらは4ブロック制で上位1チームは全国大会出場をかけて最終順位決定リーグに進みます。ペガサスは10月末時点で全8試合中5試合消化。県シニア3部よりレベルの高い相手が多いこともあり1勝4敗と苦戦していますが、内容的には接戦が多く、時には互角以上の戦いをしています。

【県シニア戦績】

第1戦 VS 鎌倉	△	1-1
第2戦 VS 赤羽根	●	0-1
第3戦 VS CHERYS	○	1-0
第4戦 VS 浅野藤沢	○	5-0
第5戦 VS 明星	○	3-0
第6戦 VS グランパ	○	1-0
第7戦 VS 西湘	●	2-3
第8戦 VS 茅ヶ崎ウエスト	○	3-0
第9戦 VS プリッツ	●	0-2
【全国シニア戦績】		
第1戦 VS L I E N	●	1-3
第2戦 VS センサシオン	●	1-2

第3戦 VS 旭	●	0-1
第4戦 VS 新横浜	○	3-1
第5戦 VS 早園	●	1-2

コロナ過とは言えメンバーを取巻く環境は様々で、前代表の霜田さんの海外駐在辞令発令、夜勤シフト、週末勤務、ケガなど様々な状況に遭遇しながら精一杯戦いましたが、最終的には「今一歩足りなかった!」というのが正直なところです。

一方でゲームにおけるチームコンセプトとして掲げた

① 次のプレー展開予測と仲間へのコーチング

② ①に応じた意識と身体の動きの準備

③ こぼれ球への寄せを早く

④ 自身のプレーをやり切る
 は、完全とは言えないまでも厳しい環境下でもある程度取り組めましたので、これらがチームに完全定着すれば、更に良い結果と内容のサッカーが展開できると信じています。

公式戦以外にも練習試合のお誘いを受けることもあり、チームとして集まって活動できる機会も多く新加入選手との融合もスムーズに進んでいるので、11月から始まる県シニアの「県議長杯(トーナメント)」では、

これまでの成果を生かして何とか上位進出を目指したいと思えます。

運営面では、今年度は「県シニア五十雀3部の正競技委員」をリーグから拝命し、川喜田さんにその重責を担って頂きました。日程調整に始まり、リーグからの通達事項や会場ごとの諸注意事項配布、そして試合会場では朝早くから本部業務の遂行など尽力頂き、ただただ感謝の一言です。また、川喜田さんの負担軽減や審判担当なども、チーム内から積極的に協力頂き本当に有難いことでした。

私は湘南高校出身ではありませんが、こうして高校生から80歳超まで「湘南サッカー」という共通のコンセプトでつながっているのは全国でもなかなかないことだと思います。このようなコミュニティに所属することはサッカーだけでなく、今後の人生においても人間関係を広げ、自身が成長できる糧となるはずですし、しばらくサッカーから離れているという方も今からでも遅くはありません。是非多くの方に参加頂き、サッカーを通じて老後の人生までもエンジョイして頂くことを願っています。



ペガサス40活動報告

ペガサス40では、主に土曜開催の全国シニア選手権予選O-40神奈川リーグ（以下、土曜リーグ）に「湘南ペガサス40」単体として参加。2020年シーズンからは主に日曜開催の神奈川県シニアサッカーリーグ（以下、日曜リーグ）に「藤沢四十雀」と合併した「湘南藤沢40」として参加しています。

昨年度より、前代表の大隈さんから69回生の浜崎と深澤がペガサスの代表を引き継ぎました。

主に、土曜は浜崎、日曜は深澤の担当で取りまとめを行っています。

土曜リーグは加入1、2年目とも、1部との入替戦で勝てずに昇格ならず、22年シーズンにおいても2ブロック制（Aブロック10チーム、Bブロック9チーム）のAブロックにおいて4位（4勝3敗2分）に甘んじ、可能性のあるブロック2位以内に入れず、23年シーズンの1部昇格の可能性はなくなりました。

リーグ戦序盤、必ず勝たなくてはいい試合において勝点「3」を取れなかった試合が2試合ありました。これが全ての原因です。サッカーの難しさだと痛感しました。

チームメンバーは湘南OBのみで構成できることが理想なのかもしれませんが、仕事や家庭の事情から、サッカーから距離を置かざるを得ない人も多く、湘南OB以外の友人知人等を勧誘して参加して頂いている状況です。幸いにも、技術だけでなく人間性も優れた方ばかりで、練習、試合とも出席率が高く、自主トレーニングを積極的に行うなどサッカーに対する意識が非常に前向きな人が多く既存メンバーとの融合もスムーズに行われています。22年シーズン前においては、GKとDFで貴重な戦力補強ができました。スムーズにチームに合流、1年を通して欠かせない戦力となりました。

戦術面においては、目標とする1部昇格レベルになるためには課題があります。個々の能力、技術のみならず、チーム戦略の統一性です。25分ハーフという短い試合時間で戦況に応じてどう戦うのかという事に関して意思疎通ができていない試合が多かったと分析しています。

リーグ戦がない土曜日にも練習試合を多く組み、少しずつ、コミュニケーションの醸成や戦術理解は進んでいるので更にチーム力向上に努めていきたいと思えます。

一方、ペガサスと兄弟チームとなる「湘南藤沢40」は昨年同様日曜リーグ2部での戦いとなりました。合併から2年目を迎えチームの融合が進み6勝0敗5分の成績で2部優勝を果たしました。チーム練習やTRMをなかなか組めない中、多くのメンバーがペガサスをはじめ別チームに所属しておりそこで磨いたサッカー感覚や技術を日曜日に持ち寄ることで、無敗で優勝を果たすことができました。合併チームではありませんが、歴史ある日曜リーグに「湘南」の二文字を背負って戦い優勝することができ喜びを感じております。

私個人は社会人一年目から会社のサッカー部に所属し東京都リーグで25年間サッカーを続けてきました。チームも若返りが進み体力も技術もある20代の若者に囲まれてどのようなモチベーションでサッカーと向き合うか悩んでいたところ湘南の先輩からお声がけいただき、ペガサスや湘南藤沢で再び高いモチベーションでサッカーを続ける機会を頂きました。

た。試合中に「湘南頑張ろうぜ！」と叫ぶとき、30年前の厳しくも楽しかった日々が蘇り、誇らしさと少しの照れ臭さがまじりあう不思議な感覚に陥ります。

仕事も家庭もプライベートもある中で毎週末サッカーをすることは難しいと思いますが、一方でそういう真剣勝負の場が毎週末待っていることは幸せなこともかもしれません。

「Partido a Partido」

1試合1試合、1プレー1プレー無駄にせず、熱い気持ちでサッカーを楽しみたい方、是非お声がけください。



トトカルチョ湘南 2022年度活動報告

平素より大変お世話になっております。若手OBチーム、トトカルチョ湘南の長大地（88回）です。トトカルチョ湘南は今シーズンも神奈川県社会人リーグ3部（Bブロック）に参加しています。5月に開幕して10月中旬時点で5試合消化し、今シ

ズンは残り2試合となっています。戦績は、10月中旬時点で1勝4敗、今シーズンも2位以上には届かないことが確定しており、昇格の可能性は無くなってしまいました。今シーズンは新規参入等で突出した力があるチームは少なく、実力が拮抗している相手がほとんどでしたので、僅差の戦いを落としてしまい非常に悔しい結果となっています。

昨シーズン、リーグ戦以外に実戦機会が少なかった反省を活かして、今シーズンはリーグ開幕前から練習試合を積極的に行いました。特に上位カテゴリ（2部所属）チームとの試合も組むことで、高い強度、スピード感を体感しました。個々のレベルでは劣るものの、チームで連携することで戦える部分もあり、自信を持つことができました。リーグ戦の結果として表れていないのがとても歯痒いですが、継続して取り組んでいきます。年々リーグ全体のレベルは上がってきており、昇格することは非常に難しくなっておりますが、リーグに参加している以上は、1試合1試合勝利を目指して戦っていききたいと思っています。

また、トトカルチヨは新戦力の補強が急務です。特に若手の戦力を

求めています。近年、大学で体育会サッカー部に所属する選手も多くなっています。大学のサークルで活動している方や、就職後にサッカーをやる場所を求めている方はぜひ一度練習試合などにご参加ください。OB会にもトトカルチヨ所属選手は多く参加しておりますので、お気軽にご相談ください。

最後になりますが、来シーズン、少しでも良いご報告ができるように努めてまいります。今後ともご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



こんにちは。湘南スプレッド代表の櫻井です。16年目となった今シーズンは、主力の引退や移籍等で、基盤が揺らぎ苦しんだシーズンとなりました。

公式戦の成績は、2勝10敗という結果でした。日本代表やブラジル代表選手を多数擁する日本一の『東京

ヴェルディBS』とはリーグ戦、関東大会と3度対戦し、大差で負ける試合がほとんどでしたが、その中でも「2-11」となったリーグ一回戦は善戦といえる結果となりました。

GKの「4秒ルール」が導入され、試合展開が早くなり、36分間を通じて砂上での走力が重要になってくる中で、若手や頭数を確保できず、全国トップクラスのチームと差が開く状況にあります。

そのような中で、2部降格の危機となり、1部2部入れ替え戦を戦うこととなりましたが、ここは何とか勝利し、関東1部残留を決めました。苦しいシーズンとなりましたが、W杯を準備優勝した日本代表選手が多く所属するこのリーグで戦うことは、とても刺激的で、貴重な経験となっています。

また、今季はコロナ禍以来となる、「第7回湘南藤沢ビーチサッカー大会」を鵠沼海岸にて開催することができ、多くの小学生が参加してくれました。同会場では、翌週に商工会議所の青年部主催のビーチサッカー大会も開催され、長崎や藤枝の商工会議所のチームが参加する等、普及の芽が息を吹き返すこととなり、大

変嬉しいです。本活動は、鵠沼海岸に常設コートを作り上げるべく、継続して普及活動を続けて参ります。

今年もこの場を借りて、選手及びサポートして下さる方を募集させて頂きます。少しでも興味を持った方がいましたら、気軽にご連絡頂ければと思います。

毎年、本稿の機会を頂き感謝しております。これからもビーチサッカーを通じて、OBの皆様にとピックを提供できるよう頑張つて参ります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いします。

(二財) 日本ビーチサッカー連盟 評議員
 関東ビーチサッカー連盟 副理事長
 (二社) 神奈川県サッカー協会 ビーチサッカー担当
 藤沢市ビーチサッカー協会 理事
 メールアドレス: sakuraaid@jimconsult.com



OB会の皆様、今年度も多大なご支援を頂きましてありがとうございます。

今年度のチームは、昨年度選手権予選ベスト8という成績を越えるべくスタートしましたが、関東大会2次予選、インターハイ1次予選、選手権1次予選とどれもあと一步のところで敗退してしまおうという結果となりました。逆に湘南に勝利したチームは3大会において2次予選に進出するなど勝ち進んだチームもあり、毎試合勝てるチャンスを逃してしまつたことが悔やまれてしかたありません。今年の3年生は入学当初から新型コロナウイルス感染症の影響により緊急事態宣言や臨時休校、部活動自粛や濃厚接触等による出席停止などで結局高校3年間コロナ前の通常の生活や活動が出来なかった学年でした。例年の湘南の特徴として入学当初はスキルやフィジカルが強豪校に比べて高校入試の為の受験勉強期間も影響し遥かに劣っている現状ですが、高い集中力や粘り強さ、勤勉さにおいて秀でている長所を活かし、コッコツと積み上げた結果、3年生の夏を超えたあたりでやっと強豪校と渡り合える『心・技・体』が形となります。しかし、コロナ以

降はなかなかその積み上げが例年通りにはいつていないとスタッフ一同感じており、工夫や見直しが必要な部分であると感じております。

また、来年度から年間通して行われている神奈川県U-18リーグが6部制に移行することが決定し、来年3月開幕のリーグ戦はK4リーグで戦うことになりそうです。高体連の大会と並行して大事な位置づけとなるリーグ戦もなかなか強化しにくい現状もありますが、沢山の選手に試合経験を積ませる場としても、強化というチーム作りの場としても全力を尽くしていきたいと思えます。

こうして今年度を振り返ってみると試合結果としてはどの大会も満足のいく結果は得られませんでしたが、今年度の3年生は、選手権予選敗退後もそれぞれ様々な想いを抱えながらリーグ戦終了まで全員残り、U-18リーグのK4Bチーム最終節、そしてK3Aチーム最終節まで戦いきりました。選手権予選敗退と同時に引退する学校が多い中、しっかりと最後の夏を超えた3年生はサッカー選手としてはもちろんですが、一人の人間として一回りも二回りも成長した姿を後輩達にも見せてくれました。この結果については胸を

張つて欲しいと思うのと同時に、既に始まっている受験勉強でも必ず生きてくることでしょう。新たな戦いで大いに力を発揮して欲しいと思います。

さて、新チームがすでに始動しておりますが、今年度の反省として、あと一步の決めきる力、球際の強さ、献身性、制空権とサッカーにおいてどれどれあたりまえの基礎基本に再度重点を置き、小柴氏の継続した指導のもと日々の練習で積み上げております。

11月から始まる新人戦が新チーム最初の公式戦となります。来年度早々に始まる関東大会2次予選の出場権をかけた新人戦地区予選です。そして、つい先日コロナ以降延期となつていたスペイン遠征の催行が決定し、2023年3月24日出発に向けて本格的に動き出します。催行決定に際し、OB会の皆様には多方面でお力添え頂きましたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。まだまだ不確定要素も多く、様々な問題も今後起きる可能性も多々ありますが、こういった不安定な社会情勢の中だからこそ学べることも数多くあると考えております。なんとか無事に遠征を終了できるようにOBの

皆様には引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、サッカー部の海外遠征についても、サッカー部の活動についても引き続きOB会の皆様の温かいご支援をどうぞよろしくお願い致します。



いつも温かく多大なご支援を頂き、ありがとうございます。また、来春の海外遠征に向けても多大なるお力添えをいただき、感謝しております。

今年度も大会シーズンが終わり、新チームが始動いたしました。現在は11月の新人戦（関東大会予選）に向けて個人の力を伸ばすため、選手たちは日々トレーニングに励んでおります。来年度は県のU-18リーグも大きく様変わりし4部制から6部制となり、湘南高校は4部からのスタートが予定されています。U-18リーグの昇格を目指しつつ、昨年度の選手権ベスト8を超えられるよう

今後更なる努力を続けていきたいと思っております。OB会の皆様の良い報告ができるよう選手共々、力を伸ばしていきたいと思っております。

今年度の結果は、関東大会は二次予選4回戦、インターハイは一次予選2回戦・選手権は一次予選3回戦、U-18リーグK3では8位と悔しい思いをした一年になりました。昨年度のベスト8を超えられるよう努力をして来ましたが、結果出せずに大変残念な思いです。思い返せば、この3年生たちは中学生の頃からコロナウイルスに翻弄されてしまった代ナウイルスに翻弄されてしまった代々きず他チームとの物差しがないまま大会を向かえることになってしまいました。それでも必死に部内で切磋琢磨を続けてきましたが、残念ながら最後の夏を越えることが叶いませんでした。それでも3年生は1人も欠けることなく9月下旬のリーグ戦の最終節まで全力でのぞみ、後輩たちへ最後まで戦う背中を見せてくれました。これからは、自分たちの進路に向けてサッカー同様、日々の積み重ねを続け、実現してくれればと思います。

さて新チームですが、3年生の気持ちを引き継いで、より高みを目指そうとすると意気込みは感じるものの自己表現が苦手な選手が多く、少し大人しい印象です。これからは自分の殻を破り、発信力を身につけていければと思っております。球際の強さや貪欲に勝利を目指す姿勢、声を出して要求することは日々のトレーニングから醸成していかなければと感じています。これからも竹谷先生や小柴さんのサポートをできればと考えております。また、OBの佐藤コーチが今年度で大学を卒業することとなりOBコーチも卒業となります。4年間、後輩たちのために多くの時間を割いてくれたことも重ねて感謝したいと思います。

今後現役生への温かいご支援を引き続きお願いしたいと思います。



この度、引退報告をさせていただきます。梅澤亮太です。

98期生は9月23日、24日のリーグ最終戦をもって引退したことをご報告致します。これまで温かいご支援をありがとうございました。

高校入試を終え、公立屈指の強さを誇る湘南高校サッカー部への期待で胸を弾ませていた私たちは、コロナ禍という不測の事態に戸惑いながらも3か月遅れで活動を開始しました。その後も様々な制約を受けながら、しかし顧問の先生方を始め沢山の方々のご尽力のお陰で、できる限りの活動をさせて頂けたことに大変感謝しております。毎日の部活が当たり前ではないことを痛感しながら、先の見えない不安を抱きながらも、できるだけ明るく笑顔で練習や試合に臨みました。

7月の選手権一次予選ブロック決勝(対市ヶ尾)では、豪雨の中健闘致しましたが、0-1の惜敗となりました。昨年のチームを超えることを目標としていただけにとっても残念でしたが、先生からのご提案もあり3年生全員で9月まで活動することにしていましたので、本来であれば引退試合となっていたかも知れないこの試合を反省材料にし、そこから更にポジションの再編成などを行いました。選手権二次予選進出

という大きな目標はなくなり、まだまだ感染対策は必要な厳しい環境の中であっても、対話を持つことを大切にチームでしたので、とことん向き合うことで、その後もチームは進化し続けたのです。

そして、9月のリーグ最終戦では、それまでの戦績では格上となる相手に技術面、フィジカル面ともに優位な試合運びをすることができ、先生、スタッフの方々のご指導のもと、自分達がこれまでの取り組みで積み上げてきたものがすべて正しかったことを証明できたと思っております。

このように、誰ひとり欠けることなく、28人全員で最後までやり切れたこと、最終戦を勝利で終えられたことを振り返ると、9月まで活動できて本当に良かったです。

かけがえのない仲間達や、どんな状況においても臨機応変に、粘り強く対応する能力を私たちは部活動を通じて得ることができました。

スペイン遠征や宿泊を伴う合宿に参加できなかったこと、等々、残念で悔しかったことも沢山ありましたが、その想いは後輩の皆さんに託したいと思います。この3年間の貴重な経験は、私たちのこれからの人生に必ず役に立つと信じています。

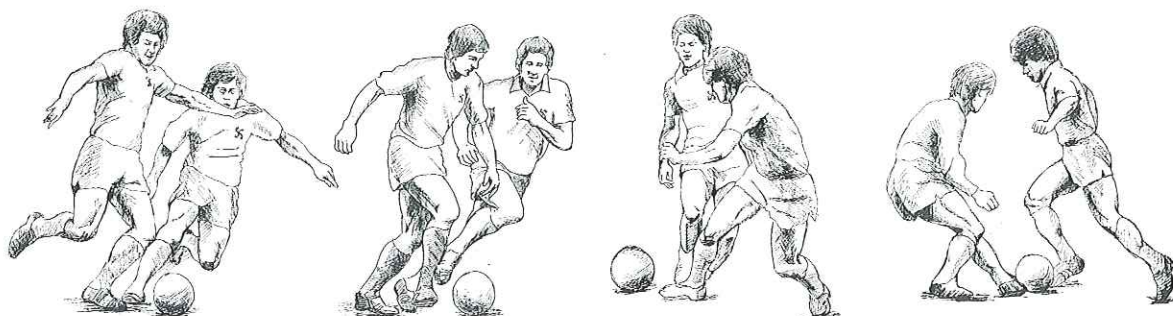


今回、現役から報告をさせていただき、2年野澤柊斗です。まずは、日頃より温かいご支援、ご協力を賜っているOBの皆様へ感謝申し上げます。会場へ応援に来て下さったり、インスタライブで応援して下さったり、常々励みになっております。また、今年度はOB(59回生)で、山形徳州会病院副院長とモンティディオ山形チーフドクターを兼務されている大沼寧さんによる講演会を開いていただきました。興味深い内容でサッカーに活かせる情報をたくさん知ることができ、とても貴重な時間になりました。今年も、コロナウィルスの影響は少なくなく、日々の検温や体調管理など基本的な対策は去年に引き続き行ってきました。選手権の期間中に体調不良者や感染者が出てしまうこともありましたが、チームとしての活動が止まることはほとんどなく、主要な大会も無事開催されたのは幸運でした。

練習では小柴さんの指導の下、去年のベスト8を超えていこうと、基礎基本を徹底しながら取り組んできました。サッカーの基本となる走りの部分では、火曜日のリレー形式の走りの他に、土日の練習ではコート周りをタイムトライアル形式で5周する新たなメニューも加わって、皆で声を出し合いながら追い込んできました。また、ヘディングは基礎練やペンテルで各自タイミングなどを確認し、1対1での競り合いの練習やゲームの中でそれを実践する、といった形で取り組んできました。しかし、関東予選ではブロックの準決勝で横須賀総合高校に、インターハイ予選では初戦で秦野高校に敗れ、またリーグ戦でも中々勝ちきることができず、思ったように結果がついてこない苦しい時期が続きました。そんな中で、なんとか状況を変えするためにイチからチームを作り直そうと、基本に立ち返って取り組んできました。そして迎えた選手権1次予選では、1回戦と2回戦を勝ち進み3回戦に進出。3回戦は雨の降る中、市が尾高校との試合、前半の給水タイム直前に失点を許し、時間の限り攻め続けましたが決めきれず、本当にあと一步の悔しい結果に

なりました。そこから2か月間は残ったリーグ戦に照準を合わせそれぞれがそれぞれの悔しさを胸に、取り組みました。結果としては、グループ全10チーム中8位と下位に甘んじることとなりましたが、選手権後の4節は3勝1敗と盛り返しました、特に最終節の桜ヶ丘高校との1戦では、先制点を決められながら2点を返しての逆転勝利と有終の美を飾ることができました。来年からは、K4リーグからのスタートになりますがK3リーグへ昇格できるよう、1、2年一同、小柴さんや先生方、家族そしてOBの皆様への感謝を忘れず、大好きなサッカーをできる喜びを感じながら練習に取り組み、さらなる成長を目指して取り組んでいきますので、どうか温かい声援を送っていただければと思います。最後にありますが、来たる2023年の3月24日から4月1日にスペイン遠征が実施できる運びとなり、本当に嬉しく思います。現在の不安定な海外情勢の中、実施に向けOBの皆様には多大なるご尽力をいただきましたこと、感謝申し上げます。今後とも引き続きのご支援をどうぞよろしく願います。皆様には

多大なるご尽力をいただきましたこと、感謝申し上げます。今後とも引き続きのご支援をどうぞよろしく願います。



**湘南サッカーの
ホームページを
ご覧ください**

制作のお手伝いを
していただけの方
募集中!!

湘南サッカー
で検索

湘南サッカーのホームページは、45回生浅倉泰が立ち上げ、現在も管理・メンテナンスを行っています。現役・OB会・ペガサスの情報を多彩に取り上げ、会報・記念誌などのPDF掲載など、年々充実してきました。OBからの近況や写真の投稿などは、旧交を温める出会いの場ともなります。投稿と同時に量的に増えた作業のお手伝いをしたいだけの方を募集しています。是非OB会にご連絡ください。こちらからお願いをした場合はよろしくお願いいたします。

OB会へのお問い合わせ・質問は

湘南サッカー部OB会

<http://www.shonan-soccer.com>

メールアドレス

関 佳史(事務局)

seki6644@yahoo.co.jp

武藤俊一(事務局)

muto-s@icm.home.ne.jp

編集後記

41回生 相羽 克治

2022年のOB会総会・蹴球祭は2年振りに、リアルで学校で開催されました。年末には会報と同時に100周年記念誌を発送、また、当日は現役3年生に渡され、記念誌の話題などで盛り上がりました。

100周年に関して大きなイベントは中止になりましたが、事業に対してOB皆さまの暖かいご協力を頂きました。その皆様方への、御礼・返礼の事は50回生の沢田ミツル氏が一人で担われ、お礼状、返礼品(今治タオル)の企画、制作、発送まで

全て完遂していただきました。(返礼タオルの特別バージョンを私費で作られました。これは時期を見て歴史館に展示の予定です)また、特筆すべきは「協賛金集め」です。3年にわたり丁寧親切にご説明され、大きな数字が集まりました。記念誌発行など諸経費も贅沢せず、剰余金実に350万円強をOB会費に組み入れることが出来ました。今後の活動の支えが出来ました。沢田さんお疲れさまでした。

8月11日には夏のOB会が開催されました。大沼氏は山形徳洲会病院副院長、モンテディオ山形チームドクターとしてもご活躍。今回のテーマは「サッカー選手のための怪我の予防」。大雑把に要約すると「筋力強化より柔軟性・関節可動域を広げることが大事」と言うお話でした。

スペイン研修旅行実施へ。2018年を最後に、新型コロナウイルスの影響で中止になっていましたが、学校の語学研修とともに2023年は実施することに決定しました。3月末の約10日間。OBでは64回生で小児科医の若木氏が同行してくれそうです。何事もなく催行されることを祈っています。長いことOB会会長としてご指導

いただいた39回生小泉親昂氏が6月ご逝去されました。小泉氏は鎌倉市議、神奈川県議など歴任され、2001年秋の叙勲で藍綬褒章を受章されました。11月には小林(旧制早川)忠生氏(1946年国体優勝、メルボルン五輪代表)の計報が届きました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

OB会、新体制への第一歩——。創部100周年事業を終え、200年へのスタートです。OB会も次代への過渡期であり暫定的ではありませんが新たな体制で活動を進めていく予定です。今までの役員・幹事を参考に人員を選びました。総会での承認を得て動き出します。よろしくお願いたします。

会長	45回	横山 雅行
副会長(HP)	45回	浅倉 泰
〃	48回	中嶋 修
事務局長	48回	関 佳史
事務局(会計)	53回	武藤 俊一
事務局	54回	藤塚 久雄
幹事	54回	森 正俊
〃	64回	若木 均
〃	71回	西 智
〃	60回	鈴木 佳子

湘南高校サッカー部歌 ご存じですか？

湘南高校サッカー部々歌

岩瀨二郎
鏑木欽作

作詞
作曲

一、白雲と高く天翔る理想

青春を培う男兒ぞ我等
伝統煌たり響けりその歌
行け行け今ぞ青き征衣
相武の健兒は天下に覇たらむ

湘南！湘南！

二、若き日を勁く漲る力

烈日に鍛う牡獅子ぞ我等
清明燦たり光れりその旗
立て立て今ぞ無縫の天衣
輝く王座を断じて獲らむ

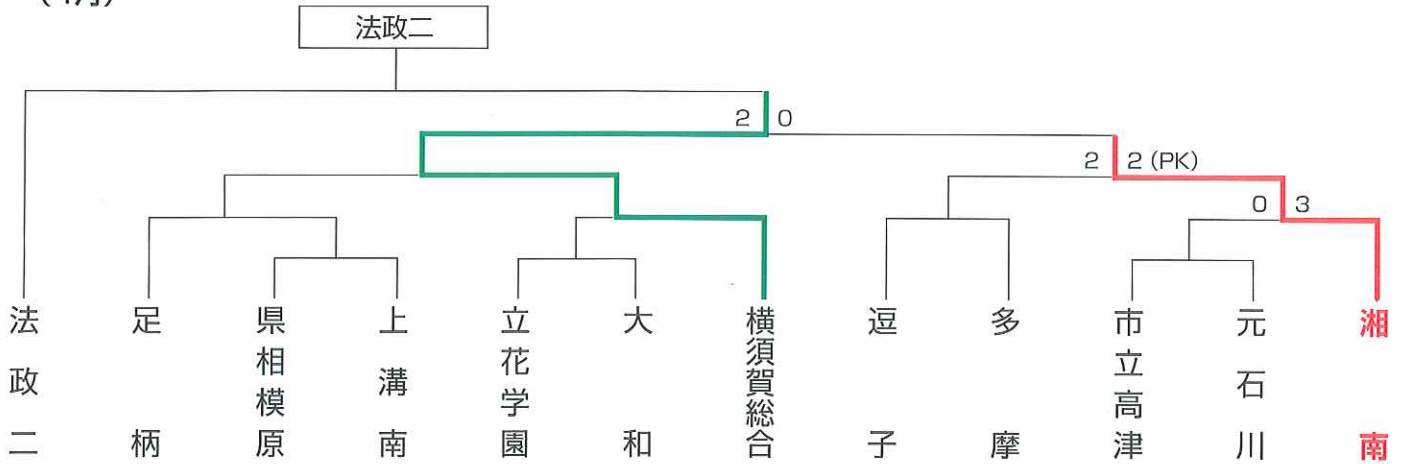
湘南！湘南！



ホームページにその他応援歌など多数紹介されており、聴くことができます。

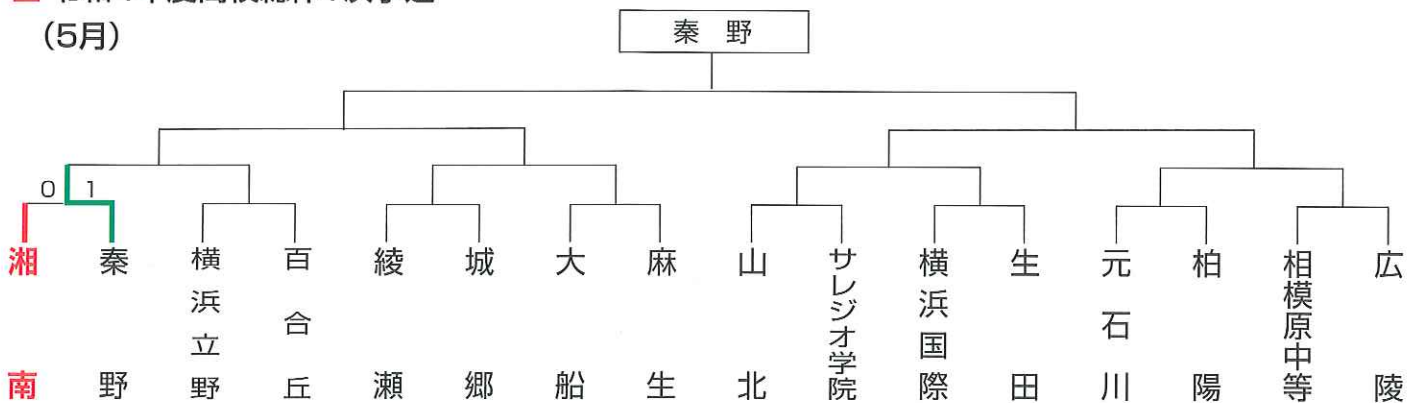
【総評】今年も3大会（関東・インターハイ・選手権）とも行われました。今年のチームは昨年にくらべ「小粒」でありましたが、走力・パス力など基礎を鍛え目指す形は見えていました。ただ、コロナの影響で「湘南生が一番伸びる時期」の練習がままならず、あと一步「チーム力」が伸びませんでした。

■ 令和4年度関東大会2次予選Bブロック (4月)



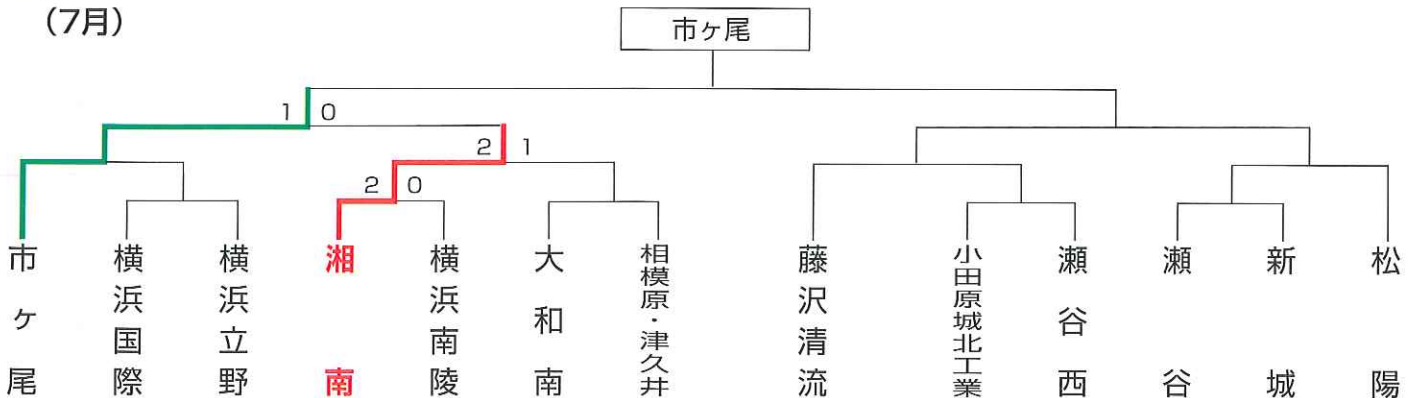
1, 2回戦は「パスサッカー」と「走力」で勝るが、3回戦は相手守備陣を崩せずカウンターで失点。工夫が必要だ。

■ 令和4年度高校総体1次予選 (5月)



序盤から大きな展開の試合でお互いチャンスをものにできず終了。後半も決定機を作れないまま、相手がワンチャンスを生かす。ロングボールやセカンドボールへの対処が課題。

■ 令和4年度全国高校選手権大会1次予選 (7月)



1, 2回戦は順調に「湘南らしさ」を生かす。ブロック準決勝の相手は実力伯仲。一進一退の攻防が続くが、右サイドを突破され失点。その後は激しい雨の中攻め続けるが、相手に上手く守られ得点できず。残念な結果となった。

【湘南サッカー百年事業・会計報告】(2022年11月17日)

収 入		支 出	
個人協賛金	4,250,000	記念誌（編集・デザイン）	1,200,000
積立金（OB会）	2,000,000	記念誌（製版・印刷）	998,000
雑収（利息など）	287	返礼品（タオル作成・発送）	396,388
①合計	6,250,287	雑費（会議費、郵送など）	100,942
		②合計	2,695,330

[収支（=①収入合計 - ②支出合計）]

収支（※余剰金）

3,554,957

※余剰金は全額、湘南サッカー一部OB会の口座（横浜銀行）に組み入れました（2022年11月9日実施済）

【令和4年度 会計報告・予算案】

	収 入		支 出		
	令和4年実績	令和5年予算		令和4年実績	令和5年予算
会費・寄付	1,253,000	1,370,000	現役寄付	500,000	500,000
100周年事業余剰金	3,554,957		蹴球祭	80,401	90,000
100周年積立金から戻入		400,572	スペイン遠征費	0	750,000
繰越金	502,954	4,092,718	印刷費	160,000	200,000
利子	5		通信・事務費	197,797	200,000
合計	5,310,916	5,863,290	コーチ謝礼等	250,000	250,000
			講師謝礼等	30,000	0
			繰越金	4,092,718	
			予備費		3,873,290
			合計	5,310,916	5,863,290

※収入見込み 185名(社会人145名、学生40名)10,000×105名+5,000×40名+3,000×40名=1,370,000

※100周年積立は、2,400,572円となり、そのうち2,000,000円を100周年事業に支出しました。

現役寄付・会計報告 令和3年11月15日～令和4年11月10日

収 入		支 出	
繰越金	0	遠征補助	0
寄付	500,000	トレーニング用品等	113,420
その他	0	筑波大附属定期戦	0
合計	500,000	会場・試合等	125,920
		参加費等	10,000
		海外遠征関連	50,000
		ボール	150,000
		コーチ費用	50,660
		合計	500,000
		繰越金	0

【5年度会費納入の件】

4年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願ひいたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。（振り込みには卒業年を入れてください）

・社会人 1口 5,000円 ・学 生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金 口座番号 019166

湘南高校サッカー一部OB会

武藤俊一 TEL. 0466 - 34 - 9329

グラウンドで遊びましょう

[蹴球祭・総会のご案内]

期日：1月8日(日)

場所：湘南高校(グラウンド、清明会館)

午前中は新人戦の試合が予定されています

皆さんのご参加をお待ちしています。

9時～10時 幹事会

10時30分～11時30分 総会

着替え・アップ

12時15分～ 対面式 グラウンド予定

12時30分～14時 40歳以上 試合

14時～16時 若手・(現役) 試合

*新型コロナの状況などにより内容変更の場合があります。ご了承ください。

*受付は総会終了後12:00から開設し、会費納入と引き換えに弁当を配布します。

*グラウンドでのプレー時以外、マスク着用は必須です。よろしくお願いいたします。



令和4年1月撮影